

優 秀

## 世界の児童労働

相模原中等教育学校

3年

松沼 まつぬま

芽依 めい

今、世界の子供達の苦しい現状について知っている人はどのくらいいるのでしょうか。世界中で約一億六千万人、子供の十人に一人が児童労働に悩まされています。児童労働とは、義務教育を妨げる労働や法律で禁止されている十八歳未満の危険・有害な労働のことを指します。ではその内容をくわしく見ていきましょう。

児童労働が起きてしまう原因は国や地域の状況によりませんが、もとを辿れば貧困がそのひとつであると考えられます。

ガーナのゴッドフレッドさんは七歳で父親を亡くし九歳から力カオ農園で働くようになりました。朝五時、誰よりも早く目を覚まし力カオ農園に向かいます。集めた力カオは頭の上に乗せて運ぶため全身が痛みます。その上、病気になっても、疲れても、休みたくても言い出すことができない環境でした。ゴッドフレッドさんは二〇一〇年に来日し、当時のことを「他の子とは違い、自分は働かなければいけないことを悲しく思っていた」と言います。

エマヌエルさんとステファンさんは住み込みで力カオ農園で働いていました。雇い主は親と知り合い、暮らしぶりを心配して「学校に行かせてあげるから」と言って二人を力カオ農園に連れて行きました。しかし実際は学校に一度も行かせてもらえず、電話番号を書いた紙をなくしてしまったため家族とも連絡が取れず、朝から晩まで炎天下の中ひたすら働かされる日々でした。このように親元から引き離して無理やり働かせることを人身売買と呼びます。これも児童労働のひとつです。

シャンティさんはインドの方です。五歳の頃から綿花畑で働いていま

した。朝早くから夜遅くまで、日中は強い日差しの中二ヶ月間休みなしで腰をかがめて作業をしました。学校には行ったことがありません。作業をしている途中、農薬を吸ってしまい頭痛や腹痛、皮膚病になったりして何度も病院に通いました。そんなつらい思いをしても一日中働いて約百八十九円しかもらえていませんでした。そしてシャンティさんは農薬の影響によって血液の癌で亡くなりました。女の子は特に結婚持参金のために働かされるケースが非常に多いのです。では、どうしたら児童労働で困っている子たちの力になれるのでしょうか。

ひとつの方法にチョコレートを買って応援できる方法があります。森永製菓の商品である「ダース」というチョコの売り上げの一部を募金する取り組みがあり、商品を購入することで応援に貢献することができます。集められた募金で教材を買い、その教材を使って教育を受けることで成人後、不安定な仕事に就く確率がより低くなるようにと願った取り組みです。そのような子が増えれば、将来その国の経済がまわるようになり社会福祉が充実する可能性が高いです。そうして好循環が生まれるかもしれません。

また、フェアトレードという方法もあります。フェアトレードとは、発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することで、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す運動です。これを児童労働が多いアフリカ、南アジアあたりの国と行うことで相手の収入が安定して、そのお金が子供達のために使われれば未来は少しずつ明るくなっていくと思います。

まずは世界の現状を知ることが大切です。学校に行きたくても行けない、朝早くから働かされる日々、労働が原因で亡くなる子、これらのことがどれほど悲しくつらいことなのかをもっとたくさんの人が理解するべきだと思います。そこではじめて自分に何ができるかを考えられるのではないのでしょうか。私はこの作文を通じていろんな人が児童労働について興味を持ち、減らすための努力をしてくれたら嬉しいです。